学校・家庭・地域で使える家庭教育支援プログラム

子育て仲間と楽しく交流！

おおいた 親の学び プログラム集 1

大分県教育委員会

はじめに

子どもの幸せと健やかな成長は、その子どもの親だけではなく、社会全体の願うところです。

教育基本法第10条（家庭教育）に、父母その他の保護者は、子どもの教育について第一義的責任を有するものであることを明記していますが、近年の社会情勢の変化を受け、核家族化や地域の人間関係の希薄化等により、子育て環境は変化してきています。熱心な親も、困りを抱えている親も、それぞれに悩みながら子育てに取り組んでいるのが現状で、家庭における子育てを社会全体で支援する取組や連携・協働が必要になっています。

大分県では、平成25年2月に大分県社会教育委員会議の「家庭教育支援のあり方について」の答申が出され、この中で家庭教育支援のための具体的な方策の一つとして、子どもの発達段階に応じた「子育て」「親育ち」のためのプログラム開発と学習機会の提供が求められています。子どもを育てていく中で、家庭で行われる教育の重要性は盛んに言われ、市町村教育委員会が実施する講座や研修会、また、学校のPTA活動でも家庭教育の充実に向けた取組は様々に行われています。しかし、公的な講座や研修会には本当に支援が必要な方に参加してもらえない場合もあり、学校のPTA活動では短い時間で効果的にプログラムを行う必要があるなど、子育てに関する親の学びを支援する上では課題も少なくありません。また、このような学習の機会で自由に使える学習プログラムの開発は本県では進んでおらず、子どもの成長と親の関わり等について書かれたエッセイを中心にまとめた家庭教育支援のための冊子「おおいた『親学のすすめ』読本」（平成20年3月作成）しかありませんでした。

そこで、新しく「子育て」「親育ち」のための学習プログラムとして、参加型学習で使える10のテーマのプログラムを作成し、その使い方や参考資料も掲載した「おおいた親の学びプログラム集1」を作成しました。このプログラム集の活用により保護者の学びを支援することが可能になると同時に、参加者同士が話し合うことにより、地域での子育てのネットワークや学校・家庭・地域のつながりを築くきっかけになっていくものと考えています。時間が足りなければプログラムの一部だけを実施していただいてもよいですし、参加者の特性を考えてアレンジして活用することもできます。プログラムが盛り上がったら、さらに回数を加えてプログラムを発展させていただくとよいと思います。

このプログラム集が様々な機会で活用され、家庭教育支援の一つとして役立つことが出来れば幸いです。

平成27年3月

平成26年度学校・家庭・地域で使える家庭教育支援プログラム検討委員会
委員長　岡　田　正　彦

おおいた親の学びプログラム集１　目次

はじめに

目　次

「おおいた親の学びプログラム集 1」の使い方　1

おおいた親の学びプログラムワークシート　3

プログラム１　「子育てを振り返ってみましょう」　4

プログラム２　「一人じゃないよ、仲間がいるよ」　6

プログラム３　「親も子も自分自身を大切に －自己肯定感をはぐくむために－」　8

プログラム４　「親からの言葉掛け」　10

プログラム５　「早寝・早起き・朝ごはん」　12

プログラム６　「家庭での学習習慣づくり」　14

プログラム７　「子どもの遊びについて考えてみましょう」　16

プログラム８　「体験活動のすすめ」　18

プログラム９　「絵本の読み聞かせ、やってみませんか？ － 絵本は心の栄養 －」　20

プログラム 10　「子どものマナーやルールは家庭から」　22

おおいた親の学びプログラムの進め方　25

資料（県からのお知らせ等）　47

プログラム検討委員名簿

「おおいた親の学びプログラム集 1」の使い方

プログラムの進め方

1 「おおいた親の学びプログラム集 1」とは？

参加者同士が子どもの成長や最近の生活を振り返り、話し合いをしながら主体的に学ぶ、参加型の学習プログラムをまとめた冊子です。

学習プログラムは10項目のテーマを設定し、それぞれに「プログラムワークシート」「プログラムの進め方」を掲載しています。このプログラムを活用した研修を行うことにより、親としてのあり方や子どもへの関わり方について、自然に気づくことができるようになっています。この気づきを、これからの子育ての中で活かし、よりよい子育てを行っていくきっかけづくりに役立つように、学習プログラムは構成されています。

また、関連資料として、子育てに関する相談窓口などの情報も掲載していますので、併せてご利用ください。

2　プログラム活用のポイント

⑴　参加型学習（親が集まり、楽しく学びあう）のためのプログラムです。5人程度の小グループをつくり、話し合いをしながら学習を進めます。

⑵　ワークシートをコピーして参加者に配り、ファシリテーターが「プログラムの進め方」を参考に進行することで、参加型学習を実施することができます。

⑶　PTAの学級懇談会、家庭教育学級、公民館の子育て講座などで活用しやすいように、「プログラムの進め方」には進行順、時間配分、ファシリテーターが話す言葉などを記載しています。

⑷　小学校低学年の子どもを持つ保護者の皆さんを主な対象者として作成していますが、そのほかの方でも、必要に応じてご利用ください。

⑸　各プログラムの所要時間は60分間になっています。プログラムを実施する時間が短い場合は、「プログラムの進め方」の☆印の活動を選び、時間の調整を行って進めてください。

⑹　アイスブレイクは、時間と参加者の状況（参加者が知り合いであるかどうか）によって省略したり、別のアイスブレイクを行ってもよいです。

⑺　著作権フリーの冊子です。使用についての事前の連絡等は必要ありません。自由にコピーしてご利用ください。

3　ワークシートの使い方

エッセイを読んで感想を話し合うのもOK！

エッセイは広報紙などに転載してもよいです。

自分の思いや考えを書き込みましょう。

自分の思いや考えを書き込みましょう。

テーマについて考えるときの資料です。

学習の振り返りができます。

短くてもよいので気づいたことを書いておきましょう。

4　用語について

ワークショップとは？

参加者一人ひとりが意見やアイデアを出し合いながら話し合いを行い、それを通した学び合いをすること。創造と学習を生み出す場のこと（元々の意味は「工房」「仕事場」「作業場」など）。

ファシリテーターとは？

ワークショップの進行役。参加者の考えや力を引き出しながらプログラムを促進していく人。

参加型学習とは？

講師が一方的に知識を与えるのではなく、学習者がお互いに話し合うなどの活動に参加することを促す学習のこと。

アイスブレイクとは？

研修会や会議などを始める時の、参加者の緊張や不安をときほぐすための活動。心と頭をほぐすウォーミングアップ。

ふりかえりとは？

プログラムの活動や話し合いをとおして感じたことや気づいたことを、自分自身で確かめること。
また、プログラムの中で気づきとして得たことを、次の活動につなげるために書いたり発表したりすること。

プログラムの中で使用するアイスブレイク集

【グループ分けに使えるアイスブレイク】

1　バースデーライン（バースデーサークル）
①合図ともに、誕生日順に並ぶ。
②１分経ったら合図して、並び終えるように伝える。
③輪になって、全員が名前と誕生日を言う。
④並んだ順番で４～５人ずつに分かれて、小グループを作る。
※時間があるときは、無言で手足を使って誕生日を教え合い、並んでみるのもよい。

2　瞬間グループ分け
①全員が集まったところで、「今一番行きたいところはどこ？」「好きな季節が同じ人同士」「好きな色が同じ人同士」など、テーマを示してグループになる。
②グループの人数をみて、適当な人数のグループに全体が分かれるように移動してもらう。

3　拍手でグループ
①ファシリテーターが拍手した数のグループに素早くなる。
②グループができたらその場に座る。
③ ①～②を繰り返す。（最後に集まった人たちとグループになり、その後の話し合いを行う）

4　ほめほめじゃんけん
①近くの人同士で二人組をつくる。
②じゃんけんして、勝った人が相手のいいところを見つけてほめる。
③ ②を繰り返して、お互いにほめ合う。

【グループ活動・自己紹介に使えるアイスブレイク】

5　□たす２
①□（漢字の部首「くち」「くちへん」「くにがまえ」）に２画書き加えて、漢字をつくる。
（例：田、白、司、兄、右など）
②グループに紙を一枚配り、全員で考えてできるだけ多く漢字を書く。
③３分経ったらグループごとにできた漢字を確認して発表する。漢字を一番多く書いたグループに、全員で拍手する。
※漢字を考える時間は調整してもよい（長くする場合は最大５分間程度とする）。

6　「あ」のつくことば
①「あ」で始まる２文字（２音）の言葉を考える。
②グループに紙を１枚配り、それぞれが考えた言葉を書く。
③１分経ったら合図して、グループごとにできた言葉を確認して発表する。
※最初の一文字を「あ」以外に変えてもよいし、「名詞」「動詞」「外来語」と指定してもよい。

7　ひとこと自己紹介
①自分の名前のほかに自己紹介するテーマを与える。
②「子どものころ好きだったアニメ」、「自分のマイブーム」、「子どものころに憧れていた職業」など、与えられたテーマについて話す内容を考え、自己紹介の中で必ず披露する。

8　呼ばれたい名前
①自分が呼ばれたい名前（ニックネーム、好きな名前など）を考えて紙に書く。
②紙を持って（名札やシールであればつけて）、その名前を考えた由来から自己紹介する。